

八重山諸島小浜島からのニューギアウナギの記録

仲宗根和哉¹

Author & Article Info

¹ 琉球大学大学院農学研究科 (西原町)

kzy121908@gmail.com

Received 18 December 2024

Revised 20 December 2024

Accepted 20 December 2024

Published 20 December 2024

DOI 10.34583/ichthy.50.0_23

Kazuya Nakasone. 2024. First record of *Anguilla bicolor pacifica* from Kohama-jima island, Ryukyu Islands, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 50: 23–25.

Abstract

A single specimen of *Anguilla bicolor pacifica* Schmidt, 1928 (Anguillidae) from Kohama-jima island, Ryukyu Islands (Okinawa Pref.), Japan represents the first record of the species from the island. The species has previously been recorded from Iriomote-jima island (Okinawa Pref.), Yaku-shima and Tanega-shima islands (Kagoshima Pref.), and the east coast of Kyushu (Miyazaki Pref.) in Japan.

ニューギアウナギ *Anguilla bicolor pacifica* Schmidt, 1928 は、熱帯域に分布するウナギ属魚類で、本種は日本国内では鹿児島県の屋久島において初めて生息が確認された (Yamamoto et al., 2000). その後、本種は八重山諸島などで生息が確認され、現在では北限記録の宮崎県以南に分布すると考えられるが、記録は宮崎県の数河川、種子島、屋久島、西表島に限られている (Yamamoto et al., 2000; 波戸岡, 2013; 関屋ほか, 2017; Hagihara, 2022; 井上ほか, 2022). このように本種は国内での生息情報や生態情報が乏しいことから、沖縄県および環境省のレッドリストにおいて情報不足種として掲載されている (立原, 2017).

2024年1月23日に八重山諸島の小浜島の石長田海岸に面する湿地から1個体のニューギアウナギを採集した。上述の通り、同島におけるニューギアウナギの出現記録は報告されていない。また、今回得られたニューギアウナギは採集後、胃内容物を吐き出した。先述の通り、日本における本種の新産地や食性の記録の集積は重要と考えられるため、今回採集された標本の記録と胃内容物を報告する。

材料と方法

計測方法は Yamamoto et al. (2000) にしたがった。全長以外の計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。生鮮時の体色は写真と撮影時の観察に基づく。Total length は TL と略記した。本報告で用いた標本は琉球大学魚類学研究室 (University of the Ryukyus, Ichthyological Laboratory: URIL) に保存されている。

Anguilla bicolor pacifica Schmidt, 1928

ニューギアウナギ

(Fig.1; Table1)

標本 URIL 00976, 全長 654 mm, 沖縄県八重山郡竹富町小浜島 石長田海岸 (24°20'23.6"N 123°58'13.5"E), 水深 10 cm, タモ網, 2024年1月23日, 仲宗根和哉採集。

記載 計測値は Table 1 に示した。体は円筒形で細長い。肛門は体の中央よりやや前方に位置する。尾部は肛門前長より長く、後方に向かい徐々に側扁し、先端はほとんど尖らない。頭部は大きく、眼は口裂中央の上に位置する。吻は短く丸みを帯び、吻長は眼径の約3倍。下顎は上顎より突出する。前鼻孔は管状で、吻端のわずかに後方に位置する。鰓孔は体側の下方に開口し、スリット状。背鰭起点は肛門のほぼ直上に位置し、臀鰭起点は肛門の直後に位置する。尾鰭先端は丸く、背鰭、尾鰭、臀鰭は連続する。胸鰭はやや前後方向に長い楕円形で下顎長とほぼ同じ長さ。

色彩 生鮮時の色彩は、背面から体側は暗褐色で、腹面は薄い黄茶褐色から白色。尾部は後方にむかって徐々に暗褐色を呈する。下顎の上部は灰色で、腹面は黄褐色から白色。管状の前鼻孔は黄橙色で基部付近は白色。背鰭から尾鰭は体の背面同様の暗褐色。臀鰭は前半部が白色で後方は薄い黄茶褐色。胸鰭は暗褐色で基部は黄色がかかる。

分布 本亜種はインドネシア、ニューギニア、フィリピン、台湾、中国の福建省、南日本にかけての西太平洋に分布する (波戸岡, 2013; 立原, 2017)。日本国内においては、宮崎県、種子島、屋久島、西表島、小浜島で確認さ



Fig. 1. Fresh specimen of *Anguilla bicolor pacifica*, URIL 00976, 654 mm TL, Kohama-jima island, Ryukyu Islands, Japan.

れている (Yamamoto et al., 2000; 波戸岡, 2013; 関屋ほか, 2017; Hagihara, 2022; 井上ほか, 2022; 本研究).

生息環境 本報告の標本が採集された小浜島は、これまでにニューギニアウナギが記録されていた西表島に隣接する小規模な島である。採集地の石長田海岸にはマングローブ林があり、防波堤を挟んで内陸側に浅い湿地が形成されている。海岸のマングローブ林と内陸の湿地はいくつかの暗渠で連続しており、湿地には海水の影響を受ける汽水域と淡水域が混在する。ニューギニアウナギの標本は、夜間に湿地内の淡水域で採集された。採集場所は止水で、水深は浅く、底質は泥状であった (Fig. 2)。国内における本種の生息環境は、湿地や休耕田、水田域の水路などが知られており (立原, 2017; 井上ほか, 2021)、今回の採集環境からも、本種は底質が泥の湿地環境を好んでいると推察される。

備考 記載標本は、体に斑紋がないこと、背鰭起部が肛門のほぼ直上に位置し、全長に対する肛門—背鰭始部間距離の割合が0.1%と小さいことから、Tesch (2003)、波戸岡 (2013) および Kita et al. (2021) が示したニューギニアウナギ *Anguilla bicolor pacifica* の形態的特徴と一致したため、本亜種に同定された。

本研究の標本は、採集後に複数の砕けた貝類片とカニ



Fig. 2. Habitat of *Anguilla bicolor pacifica* in Kohama-jima island, Ryukyu Islands, Japan (URIL 00976, 654 mm TL).

類の脚を吐き出した。貝類片は4個体分が得られ、殻表面には規則正しく配列した縦張筋があり、螺条脈と交差し凹凸を造り、茶褐色から黄褐色の地色にジグザグの褐色斑をもつ特徴と殻色から増田・内山 (2010) にしたがってイヌノメカワニナ *Melanoides tuberculatus* (Müller, 1774) に同定された。カニ類は鉗脚の形態からオオヒライソガニ属 *Varuna* およびベンケイガニ科 (おそらくカクベンケイガニ属 *Parasesarma*) に同定された。西表島の水田から得られたニューギニアウナギは、ヤエヤマヒメアマガエル *Microhyla kuramotoi* Matsui and Tominaga, 2020 やその他のカエル類を捕食していることが報告されており (井上ほか, 2021)、本種は生息環境に合わせて様々な生物を捕食していると推察される。

なお、調査期間中に小浜島の石長田海岸の湿地において確認できたニューギニアウナギは本報告の1標本のみであり、同地では、カダヤシ *Gambusia affinis* (Baird and Girard, 1853)、ホシマダラハゼ *Ophiocara ophicephalus* (Valenciennes, 1837)、ゴマフエダイ *Lutjanus argentimaculatus* (Forsskål, 1775)、オオウナギ *Anguilla marmorata* Quoy and Gaimard, 1824、およびボラ科魚類が目視で確認された。

Table 1. Measurements of *Anguilla bicolor pacifica* from Kohama-jima island, Ryukyu Islands, Japan.

	URIL 00976
Total length (mm)	654
% of TL	
Predorsal length	39.4
Preal length	39.6
Ano-dorsal length	0.1
Head length	13.5
Body height at dorsal fin origin	6.1
% of Head length	
Eye diameter	8.3
Snout length	18.9
Upper jaw length	27.0
Lower jaw length	28.2
Pectoral fin length	32.2

謝 辞

本稿の執筆にあたり、琉球大学理学部海洋自然学科の小枝圭太氏には標本作製および登録にあたりご協力いただいた。また、琉球大学大学院理工学研究科の佐藤大義氏には胃内容物のカニ類の同定にご協力いただいた。琉球大学理学部海洋自然学科生物系の三宅遥香氏には標本作製および計測にあたりご協力いただいた。Natural Box 株式会社の石神安弘氏には採集にご協力いただいた。また、民宿宮良さまには採取に際しタモ網を御貸しいただいた。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

引用文献

- Hagihara, S. 2022. Northernmost record of the bicolor eel *Anguilla bicolor* from mainland Kyushu, and notes on previous occurrences in Japan. *La mer*, 60: 1–7. [URL](#)
- 波戸岡清峰. 2013. ウナギ科, pp. 240, 1783–1784. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 井上太之・鈴木 大・北野 忠・河野裕美. 2021. 西表島において採集されたウナギ属ニューギニアウナギ *Anguilla bicolor pacifica* の記録. *魚類学雑誌*, doi: 10.11369/jji.20–024 (Feb. 2021), 68: 29–34 (Apr. 2021).
- Kita, T., K. Matsushige, S. Endo, N. Mochioka and K. Tachihara. 2021. First Japanese records of *Anguilla luzonensis* (Osteichthyes: Anguilliformes: Anguillidae) glass eels from Okinawa-jima Island, Ryukyu Archipelago, Japan. *Species Diversity*, 26: 31–36. [URL](#)
- 増田 修・内山りゆう, 2010. 日本産淡水貝類図鑑2 汽水域を含む全国の淡水貝類. ビーシーズ, 横浜. 239 pp.
- 関屋朝裕・堀之内義郎・斎藤 豊・永田俊一・高藤和洋・田口智也. 2017. 本県沿岸へ来遊したニューギニアウナギシラスについて, pp. 331–332. 宮崎県水産試験場 (編) 平成 27 年度宮崎県水産試験場事業報告書. 宮崎県水産試験場, 宮崎. [URL](#)
- 立原一憲. 2017. ニューギニアウナギ, p. 288. 沖縄県環境部自然保護課 (編) 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版 (動物編) レッドデータおきなわ. 沖縄県環境部自然保護課, 那覇. [URL](#)
- Tesch, F.-W. and P. H. Greenwood. 2003. Eel species, their developmental stages and their distribution, pp. 81–132. In Greenwood, P. H. (ed.) *The Eel. Biology and management of anguillid eels*. Blackwell Science, Oxford.
- Yamamoto, T., N. Mochioka and A. Nakazono. 2000. Occurrence of the third *Anguilla* species, *Anguilla bicolor pacifica* glass-eels, from Japan. *Suisanzoshoku*, 48: 579–580. [URL](#)